雲晴

春彼岸号

「雲　晴」第三十号
平成三十一年三月一日発行

貞林院瑞正寺
〒125-0041 東京都葛飾区東金町五―四六―五
電話（〇三）三六二七―三四一一
FAX（〇三）五六九九―五九一五

新シリーズ

釈尊のことば

法句経に学ぶ

神田寺住職　友松浩志

世に母性（ははせい）あるは
さいわいなり
父性（ちちせい）あるも　また
さいわいなり
世に道をもとむるものあるは
さいわいなり
婆羅門（ばらもん）の性（みち）あるも
また　さいわいなり

法句経　三二二

法句経（ほっくきょう）は、お釈迦様の教えの原点を伝えるお経（初期仏教経典）のひとつとして、最も知られているお経です。お釈迦様の教えは、はじめは口から口へ、言葉として伝えられていったので、短い詩のかたちをとったようです。そして内容も、目の前の生活のなかから、たくさん題材をとって、分かりやすく語られています。

ここに取り上げた三二二番も、とても分かりやすい内容です。世の中に母があり、父があることは幸せなことです。そして、何かを真剣に求めて生きる人、とりわけ宗教的な真実を求めて生きる人があることは幸せなことです。とてもストレートに、家族のあり方、生き方の基本を表現しています。

最近、家族のあり方が様々に変貌しているようですが、母という存在、父という存在が生命の起源であり、かけがえのない存在であることに変わりはないと思います。そして何より、生きるということは、道を探し求めていく営みです。それに真剣であることこそ、私たちのつとめであるに違いありません。

二千年以上前に語られたお釈迦様の教えが、そのままに現代の私たちに通じることは大きな驚きです。これからしばらく、そんなお釈迦様の教えにそって、私たちの生き方を考えていきたいと思います。

佐山 哲郎氏は、編集者、文筆家、同人作家、漫画原作者、詩歌研究家、歌人、俳人、浄土宗住職の肩書をお持ちです。

唱歌のふるさと 童謡のくに

著：佐山哲郎

―唱歌、童謡の出発点―

唱歌と童謡。この二つは混同され易いが、全く違う出目を持つものである。

明治の「学制」によって近代的な小学校が開設された時には、音楽の時間というものはなかった。

明治十五（一八八二）年にルーサー・ホワイティング・メーソンというアメリカ人により歌唱集が編纂されるに到り、はじめて音楽教育が導入される。この最初の音楽の教科書に「仰げば尊し」「蛍の光」あり、その先駆には『唄を忘れた金糸雀は』で始まる「カナリヤ」「十五夜お月さん」「七つの子」などがあった。

言語学者、金田 春彦氏の熱意あふれる研究によれば世界中で、この日本の童謡にあたる存在は皆無だという。俗謡わらべ歌に該当するものはあるが、その国の 流の詩人が子供たちのために歌詞を書き、 流の作曲家が子供たちのために曲をつけることは稀という。

「庭の千草」「スコットランドの釣鐘草」などが載っているのだから、なかなかお洒落なものである。

ともあれ、唱歌は明治を出発点として戦前戦後を通じて、今に歌い継がれてきたのである。

方童謡というものは、大正の中期、こうした明治以降の音楽教育に飽き足りない詩人、音楽家たちが子供たちのために意図的に創ったものである。

新連載

法然上人の御生涯①

法然上人と時代背景

皆さんの菩提寺は浄土宗の寺院です。その浄土宗を開かれたのは法然上人です。

法然上人は、時の権力者から民衆まで広く信望を集められました。その中で最も歴史に名高い人物としては〝北条政子〟〝後白河法皇〟があげられます。紙面に載っている法然上人の御姿も、後白河法皇が絵描き名人と呼ばれた藤原隆信に命じて描かせた御影だと伝えられています（総本山知恩院蔵）。

他にも貴族では、式子内親王 九条兼実など、平家では平重衡など、源氏では熊谷直実・宇都宮頼綱などが挙げられます。更に、庶民や陰陽師、はたまた盗賊にいたるまで法然上人の教えは身分や立場を超えて多くの人々に届いていたのでした。

激動の時代を生き、その教えが多くの人々の拠り所となった法然上人。そのご生涯がどのようなものであったのか、これから追いかけてみたいと思います。

法然上人の正式な僧名は法然房源空（ほうねんぼうげんくう）とおっしゃいます。八つの大師号をはじめとした諡（おくりな）を歴代の天皇陛下より賜っています。

一口法話

「苦悩多き人生における つきせぬ喜びの泉こそ 南無阿弥陀仏」

あくなき欲望を満足することに「しあわせ」があると信じて進んできた現在社会は、かえって不足、不満を生み、苦悩を増長させる結果となってしまいました。

快適さと便利さを追求した近代科学は極限まで発達しましたが、反面、自然環境は壊れ、人間が生きられないような事態が現実化してき、子孫に負の遺産を残すことになってしまいました。

過去の時代に比べ現在を生きる私たちは、かえって苦悩多き人生を送らなければならなくなったと言えます。

そんな苦悩の多い人生を私たちはどう生きてゆけばよいのでしょ

■大師号　円光・東漸・慧成・弘覚・慈教・明照・和順・法爾

■諡号　慧光菩薩・華頂尊者・通明国師　天下上人無極道心者・光照大士

法然上人没後から八百年の時を経た今でもその功績は大きく平成二十三年には現在の平成天皇からも大師号を賜っています。平成天皇より賜ったのは大師号の最後に紹介した法爾大師です。また黒谷上人・大谷上人・吉水上人・元祖大師・祖師などとも呼ばれますが、ここでは　般的な法然上人とお呼びして、お話を進めます。

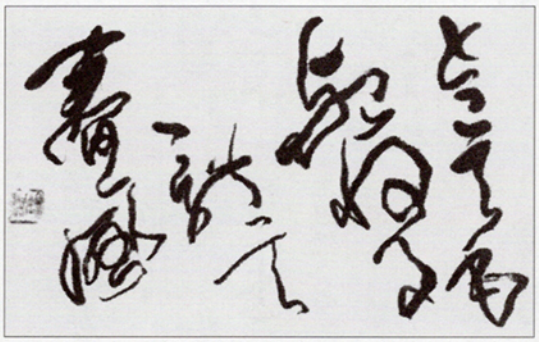
法然上人のご生涯を語る上で、まず時代背景を確認しておきましょう。

法然上人は平安時代の末期から鎌倉時代の初期にかけてご活躍された方です。その頃、国は乱れ、混乱し、移り変わっていきました。永く平和が続いた平安時代が末期を迎え貴族間の争いが増えてゆきます。そして最初の武家政権である平氏政権が誕生し、すさまじい戦いの末に源氏政権である鎌倉幕府が登場します。

このような時代を背景に、仏教界においても、　般的に鎌倉新仏教と呼ばれる、浄土宗・臨済宗・浄土真宗・曹洞宗・日蓮宗・時宗（成立順）が興り、それに呼応して既存の各宗派も活性化していった、変革の時代でした。

そのような情勢の中で、法然上人は鎌倉新仏教の先駆けとして浄土宗を開き前述のように広く人々をお救いになられたのです。次号はそのお生まれから幼少期についてお伝えしていきます。

書への誘い



「どこでも
死ねるからだで春風」

故林　錦洞　書

貞林院瑞正寺　住職　林　清方

行草書で書かれたこの書作について先代は次のように解説しています。「これは自然との対話の中から人間の「性」を見つめて多難な生涯を閉じた禅僧・俳人、種田山頭火の句である。五体は仮和合、遅かれ早かれ朽ち果てる。だからこそ今この瞬にみ仏のみ名を称えて懸命に生きようとする。この回心に目覚めた時、濁世の暗雲が払われ五体全身で春うららかなそよ風を素直に受け止める悦びが生まれる。生きる喜びの感動をダイナミックに書作してみた。」

この作品は平成十八年の春、八十四歳の時のものです。

先代は元々血圧が高く心臓も悪かったため、作品作りに集中し、少しでも無理をし過ぎるとたちまち息苦しくなって辛そうな時がありました。今思えば書作活動も命がけで取り組んでいたのだと思います。八十歳を過ぎたあたりからよく口にしていたことは「すべては阿弥陀さまのおはからい、いつお迎えがきても構わない」というものでした。自分もそんな心境だったからこそ山頭火のこの句にも共鳴できるものがあったのかもしれません。心地よい春風に吹かれながら「いつ死んでも構わない」と思えるような充実した人生を送りたいものです。

うか。それはお念仏を申し、阿弥陀如来の智慧と慈悲の光明に照らされ、つつまれて生きてゆくことにつきると思われます。

阿弥陀如来の大慈悲をいただく時、如来力により私たちの苦しみ、悲しみはやすらぎ、そこに真実のよろこびと生きる力がいただけてくるのです。

実にお念仏は、この苦悩に満ちている人生に希望とよろこびをもたらせてくれるものであります。

苦悩多き人生における、つきせぬ喜びの泉……これこそ南無阿弥陀仏のお念仏であります。

（総本山知恩院布教師会ホームページより）

春の彼岸法要ご案内

春の彼岸法要は次のとおり行いますので、お参りください。

三月二十一日（木）正午より

彼岸法要は中日の正午に先祖代々のご回向をいたします。塔婆をご希望の方は、電話・ファックス・メール等にて寺までお申し込みください。

塔婆料　三千円

回向料　志納

「書道教室でお書初め」

寺では毎月第二火曜日に書道教室を開催していますが、年初めの稽古日には毎年お書初めを行っています。

今年も今田篤洞先生が沢山のお手本をご用意下さったので、お手本に書かれた語句を各自がそれぞれの思いで選び、早速その場で練習してから本番に取り掛かりました。

住職が選んだ語句は「櫛風沐雨（しっぷうもくう）」です。これは古くから伝わる中国の言葉で、櫛で髪をすくような強い風にさらされ、雨で体を洗われるような苦労を意味します。人生とはなかなか思い通りにいかない事ばかりかもしれません。今年も大変なこと、辛いこともあるかもしれませんが、それらに負けないで精進していきたいという思いで書かせてもらいました。ちなみに副住職は「春眠不覚暁」、家内は「大願成就」を今年の書初めの手本に選んでいました。きっとそれぞれに思うところがあるのでしょう。全員が書き上げたところで本堂にて各自の作品を掲げて記念写真を撮ります。毎年のことなので皆さんが年々腕を上げているのが良く分かります。

その後は客殿にて新年会となり、先生を囲んで書道の話など楽しい時間を過ごすことができました。

現在書道教室の生徒さんは十数名ですがいつでも参加は可能です。初心者の方も大歓迎なので興味のある方は見学にいらして下さい。

「今年の出来栄えは如何ですか」

庫裡修繕工事のお知らせ

本年二月中旬から四月末にかけて庫裡の外壁塗装及び屋根瓦の葺き替え工事を行います。昭和五十三年に建てられた庫裡はこれまで一度も大規模修繕を行っておりません。一部雨漏りなどもあるためこの度修繕を行います。工事費用につきましては護持会費の積立金及び寺から負担させて頂きます。

なお工事期間中は足場や資材などに十分注意してお参り下さい。

「本番前の練習も真剣です」

＊施餓鬼法要のご案内＊

本年の施餓鬼法要は五月十四日（火）に厳修いたしますのでご予定下さい。

ご案内につきましては、あらためて四月に発送いたします。

（貞林院瑞正寺）